

科目区分：人間科学科目

授業科目名	生体の機能（歯科治療の現在）				学期	曜日	校時
英語名	Functional Physiology (Current Clinical Dentistry)						
担当 教官名	久保至誠 丸山陽市 澤瀬 隆	単位数	2単位	必修 選択	選択	後期	火曜日 校時
授業のねらい・内容・方法							
<p>歯科治療に対しては痛い、怖いといった良くないイメージが定着している。しかし、患者と医療者が対等の立場でより良い人間関係を築きあげながら治療を進めるように医療全般が移行してきているなか、歯科医療もより快適で安心なものを目指して急速に変化している。現在の歯科治療の概説することで、歯科医療に対するイメージを改善するだけでなく、医療ならびに健康に関する関心を高めたい。</p>							
テキスト、教材等							
教科書は使用しません。授業計画に沿ったプリント等を配布し、スライドなどを利用して分かりやすく講義します。							
対象学生	成績評価の方法				教官研究室		
全学部	出席、レポートおよび授業時の総合評価						
授業計画							
<p>1. 第1回 - 第5回 最近の歯科医療全般の変化と虫歯、歯周病の予防・治療について（担当：歯学部附属病院 初期治療部 久保至誠） 先ず、最近の医療全般の変化について概説する。現在の虫歯治療は削って詰めるという対症療法から脱却し、予防や痛くない MID (Minimal Intervention Dentistry) に移行している。以後、このようなことが可能となった研究の成果とその背景を分かりやすく解説する。歯周病の治療は患者と歯科医療者の共同作業であり、良好な人間関係の構築が成功の鍵となる。医療者が患者から信頼、信用されるためには何が必要かをグループ討議し、その成果を発表する。</p> <p>2. 第6回 - 第9回 崩壊した歯、失った歯の機能回復について（担当：歯学部附属病院 インプラント室 澤瀬 隆） 齶蝕や歯周病あるいは外傷等により、歯牙の崩壊やひいては歯牙そのものの喪失に至ることがある。これらが引き起こす様々な障害について概説し、それを防止し、正常な機能を回復するために行われる実際の歯科治療について、従来から行われている金属の冠を被せる（鑄造歯冠修復）方法とともに CAD/CAM を応用した最新の補綴物作成法について、材料学的な考察も交え症例とともに呈示する。また特に歯を失った後の機能回復（歯牙欠損補綴）については、近年広く認知されてきたデンタルインプラントについて、その限界と到達点について解説する。</p> <p>3. 第10回 - 第13回 歯並び、噛み合わせ、審美歯科の治療について（担当：歯学部附属病院 歯並び・噛み合わせ治療室 丸山陽市） 歯並びや噛み合わせに問題があれば、咀嚼能率、消化、発音、顎関節、発音などへの悪影響が及ぼすとされているが、現代社会の成熟に伴う審美的な要求度の高まりに応じて歯並びの審美的な回復も重要視されている。歯並びや噛み合わせ、審美性の回復に用いられる歯列矯正について、最新の生体に優しい矯正材料や目立たない治療法を中心に解説を行う。さらに歯列矯正だけでなく、歯の漂白や歯の形態修復も踏まえた包括的な審美歯科治療についてもわかりやすく解説を行う。</p>							
<p>第14回 予備日</p> <p>（予習・復習に関する指示） 本講義では、予習の必要はなく、授業においては素直な意見と疑問点を述べる事が重要である。復習というよりも、各講義後に受講生同士での活発な議論を期待している。</p>							